

# 令和5年度(2023年度)セタシジミ肥満度モニタリング

孝橋賢一・井戸本純一・佐野聡哉

## 1. 目的

近年、産卵期を迎えたセタシジミの肥満度が通常より低く、太ってこない現象が見られることがある。本現象は、北湖一円の漁場で値に差はあるものの起こっており、その増減傾向はほぼ一致している。そこで2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において毎月、肥満度のモニタリングを実施し、肥満度の変動要因を検討するための基礎資料とした。

## 2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた(図1)。毎月下旬ごろ、調査用定量桁網(採取幅8cm、袋網の目開き10mm)を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同様<sup>1)</sup>に肥満度を測定した。

## 3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2023年シーズンにむけた平均肥満度は、過去10年平均よりも2か月早く、2022年9月から回復しはじめ、3月には平均3.2%に達したが、その後回復速度は鈍化し、4月から7月まで平均2.9~3.1%と横ばいで推移した



図1 松原漁場の水深別定線(破線)

(過去10年間の平均では6月がピークで3.6%まで上昇)。

水深別に2023年期の肥満度の変動を見ると水深10mでは2月に3.4%でピークとなり、以後8月に1.7%で年度最低となったあと、9月から回復しはじめた。一方、水深15mでは4月に3.2%、4.5m、5mでは5月にそれぞれ3.6%、3.3%にピークとなるまで上昇して、以後9月にそれぞれ1.8%、1.9%で年度最低となり、10月から回復していった。

2024年シーズンにむけた肥満度の回復については、2024年3月の段階において水深15mでは2023年3月とほぼ同程度2.9%であったが、10m以浅では2023年よりも高く推移しており、やや餌環境が良好であったことがうかがえた。

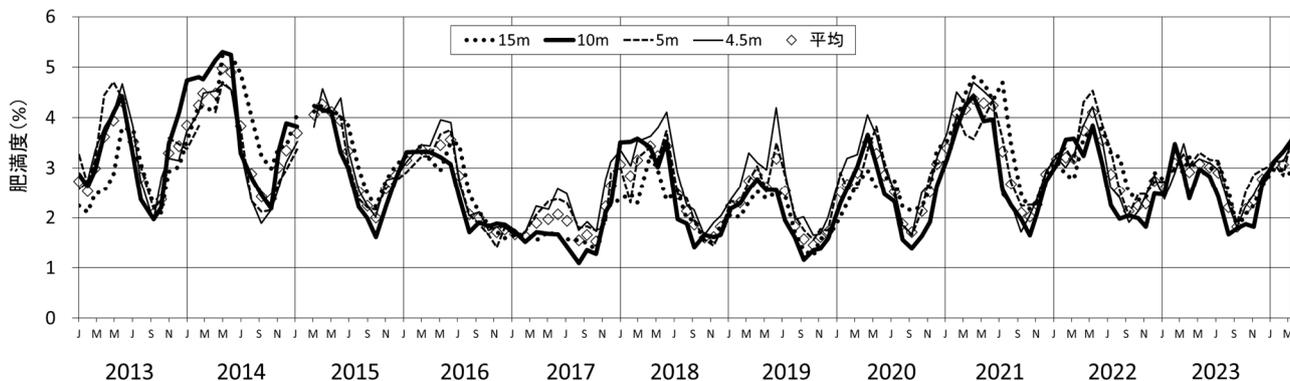


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

引用文献：1) 令和5年度(2023年度)セタシジミ漁場別産卵前肥満状況  
 肥満度(%) = 貝の中身(軟体部)の乾燥重量 / 貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む) × 100